

黒軸並びに東郷鉄砲百合の系統とその利用について

中 島 照 次*

NAKASHIMA, T. On the Strain in Kurojiku and Tōgō of
L. Longiflorum, and its Utility

九州農試園芸部においては、交雑育種と並行して既存品種や系統の調査を行なっているが、本報告は調査の主体をなした黒軸並びに東郷両鉄砲百合の系統についての調査結果の大要をとりまとめたものである。

昭和24年以来佐賀、長崎の主産地から両品種の異型と思われるものを集め栽植したが、蒐集数は黒軸約300、東郷約50点に及んでいるが、本日迄の結果で之等の系統中実用的に価値ありと認め増殖に着手したものは東郷中の一系統にすぎない。之等の系統は蒐集時においては蒐集物の土質、気候、栽培等の関係から草丈、葉数その他の各種の特性においてかなりの変異を示していた。然しながら之等をもちかえり當場において1年～数年栽植し、その後再び調査を行なうとその

変異は第1表にみられる通り、幅が非常に狭く極端な変異はみとめがたい事が判明した。

この様に系統の蒐集による新品種の確立は一見容易にみえても案外困難ではないかと思われた。

この点に関してはその後行なつた系統を利用せる各種交配の結果によつても確認された、即ち黒軸や東郷の系統を使用し自家授粉、株間交配、系統間交配を行なつて系統による受精率の差を検討したが、いづれの場合でも全般的には系統による受精率の差は認められなかつたが、たゞ例外的に一系統は他の系統と明らかに異なる傾向を示し、本質的には単純な鉄砲百合の系統中にも、まれには特異な系統が存在する事が認められたのは興味ある事例であつた（第2、3表省略）。

次に之等の系統を利用し、系統間の交雑育種を試み

* 九州農業試験場

第1表 黒軸蒐集系統の変異(比数)の1例(昭和27~28年) 球周19~21cm

個 体 番 号	蒐 集 地	蒐 集 時					同 一 年 栽 植 後				
		草 丈	葉 数	蕾 数	葉 長	木子数	草 丈	葉 数	蕾 数	葉 長	木子数
1	A	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100
2	//	107	74	67	115	125	114	109	100	119	88
3	//	114	74	50	117	38	114	94	83	93	88
4	B	118	81	50	105	25	107	96	100	88	100
5	//	88	75	50	109	50	111	100	74	87	88
6	C	75	93	100	145	50	109	112	100	94	112
7	D	84	100	50	98	125	114	115	83	87	88
8	E	64	105	67	107	112	109	103	83	98	75
9	//	59	105	83	119	112	114	115	100	103	62
10	//	49	108	33	87	75	111	100	67	101	75
11	F	131	104	67	101	175	102	97	100	96	50
12	G	100	98	83	133	88	107	94	100	98	88
13	H	103	90	67	107	88	113	106	74	86	50
14	I	128	79	67	106	13	111	104	100	102	100
15	//	109	71	50	102	25	115	94	100	104	88
16	J	100	73	100	129	75	109	100	67	93	62
Aの実数		26.5 cm	65 枚	6	12.6 cm	8	40.2 cm	92 枚	8	14.2 cm	6

註 葉長は第二十枚目を測定。

たが、全般的に受精率低く種子の確保が困難で、他方得られた実生はその変異の幅は狭いガビグツの発現が品種間交配に比し著しく低く、之による優良系統の作出には困難がかんじられた。

以上の事は現地調査の結果でも同様で、かかる意味

において昭和29年長崎県下の品評会で園芸部熊沢 邵長、阿部技官により発見命名された雲仙と長崎はすぐれた事例であり(特性、生育状況の表省略)、従来の黒軸、東郷に代る優良品種として検討の必要があろう。